

クマゲラとの共生を目指す森林施業について

三本木営林署 業務課長	成田 晃彦
奥瀬森林官	○鳴海 徹
法量森林官	佐々木 義則
八溪山森林官	高阪 覚

○ はじめに

三本木営林署は、平成5年度の業務研究発表会で「クマゲラ生息に係る当署の対応について」と題して発表をしたが、その後も、クマゲラ生息地周辺の人工林間伐や台風の被害木処理をめぐって、地元の自然保護団体やマスコミ及び南八甲田のクマゲラ生息調査を行っている関係機関との対応が生じ、関係者の理解と協力を得ながら調整を図ってきたところである。

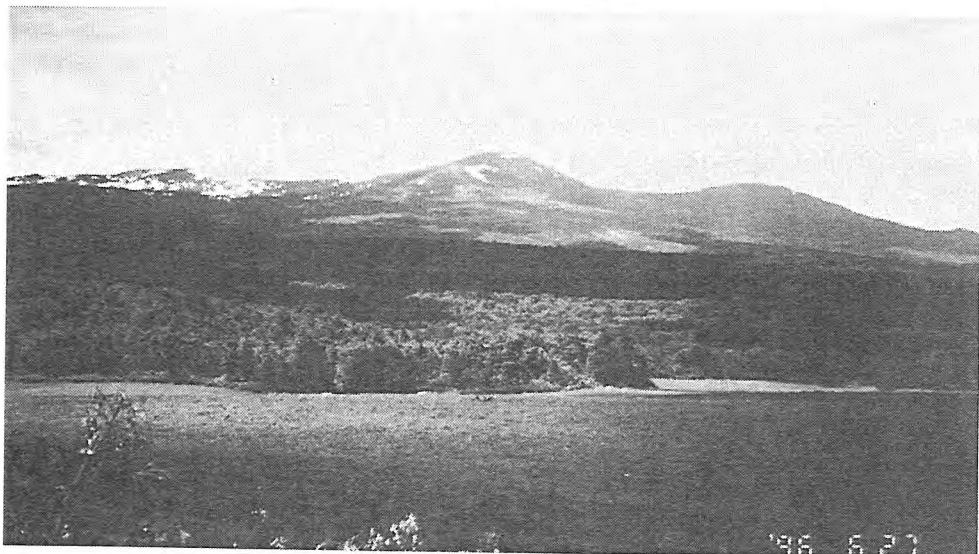
平成7年度と8年度に、ブナなどの天然林の択伐予定箇所において、クマゲラが目撃情報や採餌木及びクマゲラのものと思われる掘りかけの穴が確認されたことから、関係機関の指導も得て、自然保護団体と話し合った結果、クマゲラが営巣等に使用されると思われる候補木を保残して、それ以外の調査木は予定どおり伐採する、いわゆる「クマゲラ施業」を実施して、森林施業とクマゲラとの共生を図るための調整を行いました。

○ 具体的な取り組み

クマゲラ施業を実施したA及びBの箇所は、三本木営林署第二次施業管理計画（H7～11）で伐採予定箇所面積 221HA、伐採予定数量11,500m³、林道延長 3,900mの計画となっていた。林齢は 169～174年で、昭和 18,19年の当りに小面積皆伐による薪炭材を生産した記録があり、後継小径木と老齢木の二段林相となっている。

A及びBの標高は、約 700～900mで「クマゲラ施業」の実施箇所は、いずれも標高が約 800mの箇所であり、三本木営林署が平成5年に営巣を確認した標高約 320mと比較すると、かなり高い位置となっている。

（写真1；南八甲田の裾野）



"クマゲラ施業" 実施に当たっては、平成7年にAの箇所、平成8年にBの箇所
で自然保護関係者と現地で話し合っていました。

ここで "クマゲラ施業" について説明します。

北東北のクマゲラ営巣木は、これまで確認されたものの殆どは、「ブナ生立木」で
「形状が通直」な「胸高直径がおおむね50cm以上の高木」で「枝下高が平均10m位」
と高く「巣穴の位置は地上9m前後」で「肌がなめらか」で「つるがらみでない」一
等級のブナとなっている。

営巣木の環境条件としては、通常傾斜5度以下の南回り緩斜面や平坦地で、高木の
連るブナを主体とする天然林で、巣穴の前方が開けていることが好条件とされる。

したがって、クマゲラが営巣等に使用されるとされる候補木を保残して、それ以外
の調査木は伐採してやる。

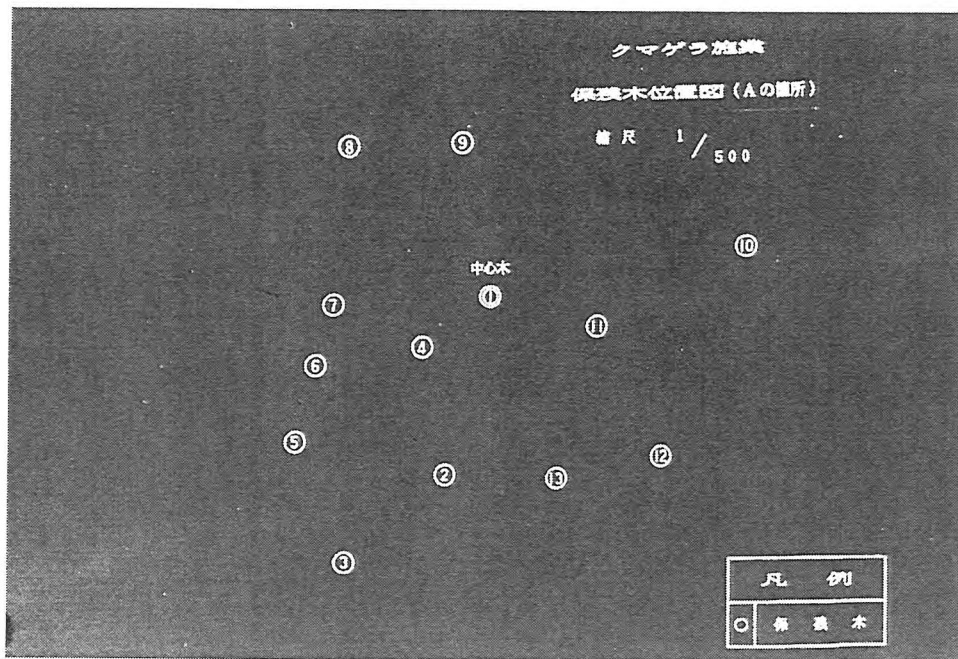
また、予想される巣穴の前方を開放させるために、支障となる立木を伐採して取り
除いてやる施業方法を言います。

● 平成7年に実施した「Aの箇所」の"クマゲラ施業" について

(写真2 ; 調査野帳)

クマゲラ施業 (調査野帳)					
No.	樹種	径級cm	樹高m	枝下高m	備考
1	ブナ	54	22	12	Aの箇所 6伐区内 調査木(中心木)
2	ブナ	54	22	11	" 調査木
3	ブナ	56	21	8	" 調査木
4	ブナ	60	23	11	" 調査木
5	ブナ	60	22	13	" 調査木
6	ブナ	52	18	9	" 調査木
7	ブナ	50	18	12	" 調査木
8	ブナ	76	21	9	" 調査木
9	ブナ	58	20	5	" 調査木
10	ブナ	70	24	9	" 調査木
11	ブナ	70	22	7	" 調査木
12	ブナ	86	22	7	" 調査木
13	ブナ	54	21	3	" 調査木

(写真3 ; 位置図)



営巣の可能性が最も高いNO-1のブナ生立木(胸高直径54cm, 樹高22m, 枝下高12m)を中心に半径最長44mの円内に、胸高直径が50~86cm, 樹高18~22m, 枝下高3~13mのブナ生立木合計13本を候補木として保残した。

候補木は、13本全てが、当初の収穫調査で調査木に選木していたものである。

また、中心木に近接するトチ生立木(胸高直径30cm, 樹高15m)は巣穴の支障木として伐倒している。

(写真4 ; 営巣の可能性が最も高いNO-1のブナ生立木)



(写真5 ; NO-1以外の候補木)



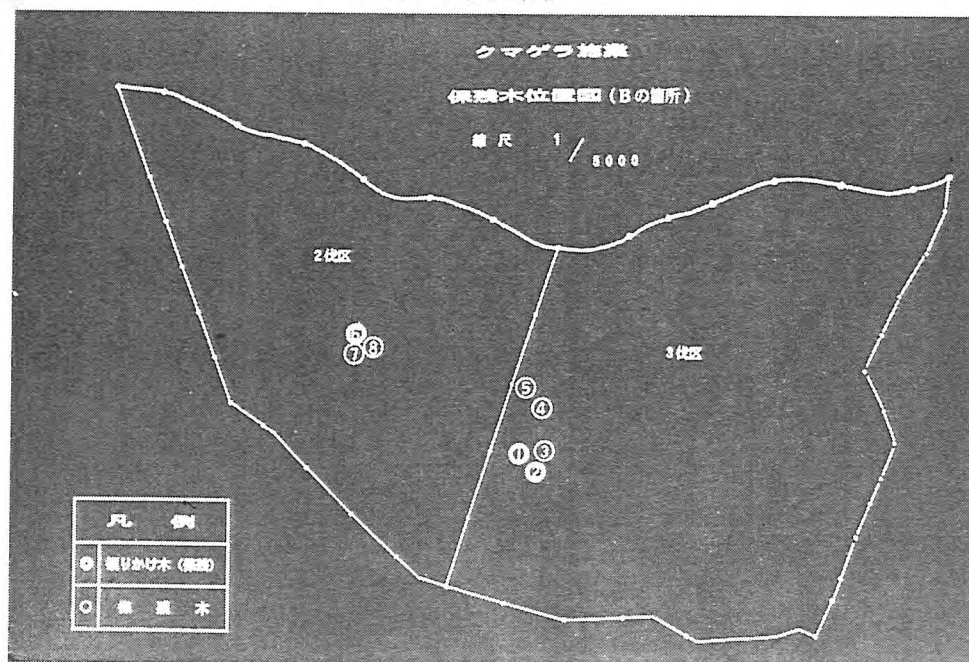
- 平成8年に実施した「Bの箇所」の「クマゲラ施業」について

(写真6 ; 調査野帳)

クマゲラ施業 (調査野帳)

No.	樹種	径級cm	樹高m	枝下高 m	掘かけ穴位置 m	付録	考
1	ブナ	48	20	11	上7.8 下6.6	Bの箇所3伐区内	調査木
2	ブナ	54	20	12	11.0	"	
3	ブナ	54	23	10		"	調査木
4	ブナ	50	23	11		"	調査木
5	ブナ	54	22	16		"	
6	ブナ	54	19	10	7.0	Bの箇所2伐区内	
7	ブナ	56	20	9		"	調査木
8	ブナ	78	23	11		"	

(写真7 ; 位置図)



クマガタのものと思われる掘りかけ穴のブナ生立木3本 (NO-1「胸高直径48cm, 樹高20m, 枝下高11m」 NO-2「胸高直径54cm, 樹高20m, 枝下高12m」 NO-6「胸高直径54cm, 樹高19m, 枝下高10m」) と, これに係わるブナ生立木5本 (胸高直径50~78cm, 樹高20~23m, 枝下高 9~16m) の計8本を候補木として保残した。そのうちNO-1・3・4・7が当初の収穫調査で調査木に選木したものである。

また, NO-7に近接するブナ生立木 (胸高直径46cm, 樹高22m) は, 巣穴の支障木として伐倒する標示をした。

(写真8 ; 掘りかけの生立木)
(NO-1)



(写真9 ; 掘りかげのナ生木)

(NO-6)



○ クマゲラとの共生の課題について

三本木営林署におけるクマゲラ生息とその対策については、平成2年に地元の自然保護団体から保護要請が出されて以降、関係機関のクマゲラ生息調査に基づく指導も得ながら、平成2年に出された局長通達、いわゆる「クマゲラ通達」に基づく保護対策を講じてきたが、相当面積の広がりを持つブナなどの天然林であれば、局長通達の実施と併せた「クマゲラ施業」により森林施業とクマゲラとの共生を図ることは可能であるが、当署で確認されたクマゲラの営巣木及びネグラ木の多くは、スギなどの人工林に近接していて、分収育林や分収造林地も多く、間伐林分が多い。

クマゲラ通達の趣旨は、ブナなどの天然林の森林施業の取り扱いを定めたものと考えられ、スギなどの人工林に係る森林施業については、具体的に触れられていない。

クマゲラ通達の禁伐エリア内に入る人工林の間伐及び将来の皆伐の取り扱いについて、その指針を作成する必要がある。

なお、当署における営巣木及びネグラ木に近接する間伐箇所の伐採については、関係機関の指導を得るとともに、自然保護団体とも十分に意思疎通を図り、ネグラ木であっても、営巣の可能性があると思われる場合には、作業期間をずらすなどの配慮をして伐採を行っている。

以上のことから、相当面積の広がりを持つブナなどの天然林におけるクマゲラの保護については、“クマゲラ施業”により森林施業を実施してゆきますが、クマゲラ通達の禁伐エリア内に入る人工林の間伐及び皆伐の取り扱いについては、関係機関及び営林局の指導を得て、森林施業とクマゲラとの共生が図れる方策について、保護団体とも、これまで同様に意思疎通を密にしながら、方向性を見出して行く努力をして参る考えである。

クマゲラ保護のため、生息場所等を具体的に示すことができないことをご了解いただき、関係者の更なるご指導をお願いしまして、発表をおわります。